

和名	分類	特徴ほか	会える場所											
			ハイム (中野島)	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他								
ルリタテハ	タテハチョウ科	青・黒・白の配色の妙	○	x	○	全国								
			成虫発生時期(月)											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
○ 食草			食樹		発生回数/年		越冬形態							
ホトトギス、サルトリイバラほか					3		成虫							



韮崎市 7月12日(2020年)クヌギの樹液を吸う。上隣にベニシタバがいる(隠れている後翅に濃いピンクの模様あり)



相模原市 4月6日(2022年)越冬しているにしては新鮮



宮古島 3月26日(2019年)島のあちこちに多い(南西諸島)

成虫発生時期(月)											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
○ 食草			食樹			発生回数/年			越冬形態		
ホトトギス、サルトリイバラほか						3			成虫		

とにかく飛ぶのが速い蝶です。成虫で越冬することもあり年中見られるのですが、特に秋に見る機会が多いような気がします。秋の生田緑地では、柿の実が熟して落ち出す頃にルリタテハ、ムラサキシジミなどが腐りかけの果汁を求めて木に集まるのが見られます。

サルトリイバラを食す幼虫(横浜市5月28日(2020年))



ルリタテハによく似たイメージをもつのが山地性のキベリタテハです。こちらは草でなく、ダケカンバ、シラカバといった木の葉を食します。羽の外縁の黄色い縁取りの内側に並ぶ青斑が印象的ですが見る機会は少ない蝶です。 ↓



キベリタテハ 長野県南佐久郡 8月24日(2020年)東日本の山地~北海道に産するが見る機会は少ない



北杜市 7月7日 (2021年) ミネラル補給



相模原市 4月6日 (2022年) 越冬個体の日向ぼっこ 殆ど傷みが見られない



横浜市 3月23日（2021年） 早春の里山、羽化したてのミヤマセセリ・コツバメなどに混じる越冬組のルリタテハ



相模原市 4月6日（2022年） 枯れた風景の中で一際目立つ瑠璃色